



- ・国際会長主題 "Mission with Faith" 「信念のあるミッション (使命・目標)」 Wichian Boonmapajorn(タイ)
- ・アジア会長主題 "Through Love, Serve" 「愛を持って奉仕をしよう」 Edward K.W. Ong (シンガポール)
- ・西日本区理事主題 "You can do it! Yes, you can!" 「あなたならでき! きっとできる」 遠藤 通寛 (大阪泉北)
- ・九州部部長主題 「九州から輝くワイズダム」 五嶋 義行 (阿蘇クラブ)

熊本にしクラブ会長主題 "Let's enjoy Y's Life"
 ~ 二度とないこの時を、仲間と共に ~ 第7代会長 木本 博章

編集前記

プリテン委員長 佐藤通彦

先月、4月14日21時26分の前震、4月16日1時25分の本震と2回の最大深度震度7を発生させた熊本地震にて、熊本・大分と広い地域に渡って、大きな被害を受けております。

5月8日時点で、1333回という驚異的な回数の余震が現在も続いており、気の抜けない毎日を過ごしております。幸い、熊本にしクラブのメンバーに、怪我した等の情報はありますが、まだまだ、メンバー各々が、自分の生活圏(家庭・職場等)の復旧作業に奮闘している状態で、現時点で、当面の例会・行事予定が、決定できていない状況です。

そんな中、プリテンの体を成していないのは重々承知しておりますが、各地域のワイズの仲間から、支援や応援をいただいている中、一日も早い復興へ向けて頑張っている事を少しでもお伝えできるように、プリテンという形で、残させていただきます。

現在、YMCAスタッフが身を粉にしての支援活動を行っております。少しでもサポートしていけるように、今後も熊本にしクラブのメンバーも努力してまいります。

今月の聖句

「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」

(ヨハネによる福音書 13章14節)

先月14日熊本大地震が発生しました。16日も同じ震度7という大きな地震でした。2週間以上経った今でも余震が続いています。地震は夜中でしたし、唐突に発生したわけですから、多くの方が地震は怖くまたいつ起こるのかと今でも不安に駆られている次第です。亡くなられた方も多数おられます。私の知人の中にも家が倒壊したり、倒壊しないまでももうそこには住めない状況になっていたり、はたまた避難する時に真夜中であつたため側溝に足を踏み外し骨折したり、また怖さのために避難所にずっと寝泊まりしたりといろんな方がおられ、1日でも早く地震がおさまることを願う次第です。

先日ボランティアで知人の家屋や家財の整理を手伝いました。軽トラ10回分の災害ごみを運んで、何とかようやく元通りになった次第です。朝8時半から5時まで食事も休憩もなしに頑張りました。災害ごみの受け入れが5時までとなっているため食事の時間も惜しんで皆で頑張ったわけです。また私の職場は避難所となっていて最高時500人位の方が避難されていました。避難所では、行政の職員だけでなく他県からの応援職員やボランティアの方が頑張っておられたり、避難者の中でリーダー役を引き受けられたりといろんな方がそれぞれ頑張っていて1日々を過ごされています。しかし、長時間不安や恐怖の中で過ごしているとちょっとしたことで争いになったり、配給物などに対するクレームがあったりといろんなことが起こります。

そういった時、避難者の方たちにとって「心のケア」が大切だと痛感しています。それは、避難者のお世話をする人たちだけでなく、避難者の方たち自身もまた直接お世話できない人たちも皆に必要な視点だと思います。よく言われる「人の心に寄り添う」ということは、心のケアを考えながら支援することだと思っています。聖書にあるように率先して互いに相手のためになることを心に寄り添った形で始めていきましょう。

4月例会出席状況

在籍会員数	0名	例会出席率	--.-%
広義会員数	0名	メイキャップ	0名
例会出席数	0名	メネット	0名
第1例会	0名	コメント	0名
第2例会	0名	ゲスト・ピシター	0名

いざ立て

1. いざ立て心あつくし 手を挙げ誓いあらたに
われらのモットー守る ふさわしその名ワイズメン
絶えずめあて望み この身を捧げ尽くさん
2. 歌えば心ひとつに ともがきひろがりゆきて
遠きも近きも皆 捧げて立つやワイズメン
栄えと誉れ豊か まことは胸にあふれん
なごりはつきねど
なごりはつきねど つどいははてめ
今日ひとひのさち 静かに思う

4月例会

4月6日(水)、「このよりのゆりかごから子ども食堂へ」という 주제로、慈恵病院 竹部看護部長に卓話をいただきました。また、200%例会を目標に、たくさんのビジターに参加いただき、とても充実した例会を行う事ができました。

また、慈恵病院による子ども食堂は、震災で大変な時期に、予定通り4月28日に開設されており、被災者支援バーベキューなどを行い、地域で困っている方の手助けを実施されています。このような活動を、とんども、支援していきたいものです。

4月例会報告

宮村陶太

今回のお話を聞いて、家族のコミュニケーションの大事さを改めて痛感しました。特にコウノトリのゆりかごを利用された方のデータを拝見した際に、「誰にも相談できない」という現実と、「寂しい」という現代の子どもたちが持つ心の問題が現象として現れていることは、納得できると共に自分が家族を持った時、また、今の家族とのコミュニケーションを再度考えさせられました。

いくら唯一理性が働く動物である人間といえど、本能的に自分を守ろうとすることが、行動に現れていくことを考えれば、環境によって良くも悪くもなるのだなど深く心に刻み込むことができました。

夫婦共働きや、核家族化など、社会構造に問題があることも一つの原因ではありますが、意識するだけでかなり予防できるのではないかと思います。そう思えば、三世帯住宅の推進（国から補助金が出ます）や、地域コミュニティの構築などの国レベルでローカリズムが叫ばれているのも、国家財政やビジネスの一つの手法としてではなく、人間が健全に育つベースと成り得るものであると、見方が変わりました。ワイズメンズクラブの皆様には、仕事も家庭も全力で取り組まれていることと思いますが、更に仕事に精を出し、家族との時間を大切に、そして自分もケアできるよう、毎日を元気いっぱい過ごしていきたいですね。明朗、愛和、喜働は倫理法人会の言葉ですが、まさしく我々大人が実践し、子ども達はその背中を見て素直に育ってほしいと願います。



木本会長による会長挨拶



宮村ワイズと田邊さん



亀井ワイズと廣光さん・川端さん



岩本ワイズと藤岡さん・佐藤さん



佐藤ワイズと伊東ファミリー



卓話をいただいた竹部智子さん

平成28年熊本地震

熊本一帯は、熊本地震の影響で、現時点でも、1万人を超える避難者がおられる状態です。この人数は、避難所・広場に自家用車を停めて避難している車中泊の避難者は、ほとんど含まれていない人数とのこと。これから、長期的なサポート、復興活動が必要となっております。

そんな中、YMCAスタッフは、震災当日から泊り込みの避難者などへのサポート作業に奔走され、また、海外・国内のワイズメンズクラブからは、暖かい応援・物資提供・義援金をいただいております。

これから、困っている方の声に広げるべく、応援して下さっている多くの仲間への誠意に広げるべく、クラブ一丸となって、活動して行きたいと考えております。

本当に、応援有難うございます。長期戦になります。これからもよろしくお願いいたします。

震災を経験して

水元 裕二

熊本は地震が少ないところと思っていました。その幻想を無残にも打ち砕いた今回の震災は、震度7の前震の後にさらに強い本震が来るという未だかつて経験したことのない形で熊本や大分に襲いかかり、60名余りの死者と千数百名の負傷者、5万棟を上回る家屋破壊をもたらし、一時は18万名もの人々が避難生活を余儀なくされました。その後の余震（続震と呼んだほうがいいかもしれません）が長引き、復旧への道のりは遠いものとなりそうです。

熊本在住のワイズメン・ワイズファミリーには、家屋に被害を受け一時避難された方はおられましたが、身体的な被害を受けた方はなく命が守られたことは幸いでした。

しかし、これから心身両面で疲れが出てくることと思います。お互い、後片付けが大変ですが、体調管理にはくれぐれも注意しましょう。

発災当初は、混乱の中で、まずは家族の安全、近所の安否確認、職場のスタッフの安否と所在の確認に追われましたが、気がついてみると断水となり、水の確保、食料の確保も大変でした。ただ、行く先々で誰かが手を差し伸べてくださり、クリニックも16日に一日だけ休診しただけで、どうにか診療を続けることができました。特に、地下水を分けてくださったご近所のかたには感謝してもきれません。

仕事の合間を縫って、YMCAから依頼のあった消毒薬や衛生用品の手配など、自分にできることをしました。小児科医の友人たちからミルクや離乳食、お尻拭き、口腔ケアセットなどを送ってもらい、さらに市医師会からも物品の供与を受け、すべてYMCAを通して避難所に届けることができました。つくづく、日ごろのネットワークが大切だなと感じましたし、友達の有難さが身にしみました。

今後は、心のケアに重点を置いて、被害のひどかった地域の人々のケアに携わっていきたいと思っています。

ワイズメンズクラブの仲間からは、九州部宛に温かいお気持ちのこもった義援金が続々と送られてきています。また、DBC仲間の東京西、京都ウエスト、大阪西、神戸西の各クラブは、私たち熊本にしクラブ宛てに早々に支援金を送っていただきました。

昨年IBCを締結したばかりの台湾エバーライフクラブからも多額の義援金を送っていただきました。また、旧広島西クラブの山野進さんも歯ブラシ600本を送っていただきました。まさに、ワイズメン・メネットの絆の強さに心揺さぶられる思いです。

これらの温かいお気持ち・励ましにより、復興に向けて力強い足取りで立ち向かっていこう、YMCAとともに働こう、と新たな闘志が湧いてきました。

長期戦になりますが、皆が出来ることを出来る範囲で頑張り、息長い活動を続けられるように、この逆境をクラブメンバーの心をひとつにする契機としましょう。

平成28年熊本地震の記録

佐藤 通彦

熊本に2回の激震（震度7）が襲う！

- 4月14日21時26分 熊本県熊本地方 M6.5 震度7
- 4月16日 1時25分 熊本県熊本地方 M7.3 震度7

●気象庁震度階級説明解説

震度	屋内	建物	設備・インフラ
0	神経(震度計)が検知し、人は揺れを感じない	変化は無い。	変化はない。
1	地震や揺れに敏感もしくは過敏な限られた一部の人が、地震に気づく。めまいと錯覚する。		
2	多くの人が地震であることに気付き、睡眠中の人の一部は目を覚ます。天井から吊り下げた電灯の釣り紐が左右数cm程度の振幅で揺れる。		
3	ほとんどの人が揺れを感じる。揺れの時間が長く続くと不安や恐怖を感じる人が出る。重ねた陶磁器の食器が音を立てる。	風が無い時も電線が少し揺れる。	
4	ほとんどの人が恐怖を感じ、身の安全を図ろうとし始める。机などの下に潜る人が現れる。睡眠中の人のほとんどが目覚ます。吊り下げた物は大きく揺れる。接近した食器同士がずれて音を立てる。重臣の高い置物等が倒れることがある。	電線の揺れがハッキリ確認できる。木々の揺れが風でないことが分かる。歩いて揺れを感じる。座り込むと揺れていることが確認できる。自転車の運転中に、突風で一瞬ハンドルを取られる感覚に似て、地震の揺れに気づく人がいる。	木造：アルミサッシを用いていない古い木造家屋ではガラスが振動して鳴る。軟弱地盤の湿地等を土地改良した地域に経つ建物は他の地域に比べて大きく揺れる。老朽家屋では柱と壁に隙間が生じる。RC造：瞬間的にアルミサッシのガラスとガラス留めがずれてピシッと音を立てる。
5弱	ほとんどの人が恐怖を感じ、身の安全を図ろうとする。歩行に支障が出始める。天井から吊りした電灯本体を始め、吊り下げられた物の多くが揺れ、家具は音を立て始める。重心の高い書籍が本棚から落下する。	歩行中にふらつく	模造：耐震性の低い家屋では筋交い・火打等の倍率が低い部位を中心に応力が集中し、壁には亀裂が入り、柱の継手部分が破壊する。RC造：耐震性を謳っている家屋では柱や梁などの接合部分の軋む音が鳴る。
5強	恐怖を感じ、たいいの人が行動を中断する。食器棚などの棚の中にあるものが落ちてくる。テレビもテレビ台から落ちることもある。一部の戸が外れたり、開閉できなくなる。室内で降って来た物に当たり、転んだりなどで、負傷者が出る場合がある。	窓ガラスが割れたり、補強していないブロック塀が落ちてくる。道路にも被害が出てくる。	木造：耐震性の低い住宅では壁や柱が倒壊するものがある。RC造：耐震性の低い建物では、壁や柱に大きな亀裂が入るものがある。耐震性の高い建物でも壁に亀裂が入るものがある。
6弱	立っていることが困難になる。固定していない重い家具の多くが動いたり転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、ガラスが割れたり、壁のタイルが剥がれ落ちたりする。	木造：耐震性の低い住宅は倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも壁や柱が破損するものがある。RC造：耐震性の低い建物では、壁や柱が破壊されるものがある。耐震性の高い建物でも壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	多くの建物で、壁のタイルが剥がれたり、また窓ガラスが割れたりして落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。老齢の中高木は根元から折れることがある。	木造：耐震性の低い住宅は倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。RC造：耐震性の低い建物は倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも、壁や柱が破壊するものがある。
7	落下物や揺れに翻弄され、自由意思で行動できない。ほとんどの家具が揺れにあわせて移動する。テレビ等、家電品のうち数キログラム程度のもので跳ねて飛ぶことがある。	墓石は重さ数十キログラムの棹石部分が倒れる。細い中木や高木は根元から折れるものがある。ほとんどの建物で外壁タイルは剥離、窓ガラスは割れ、地上に落下する。	耐震性の高い住宅・建物でも、傾いたり、大きく破壊されるものがある。

● 本震後の熊本の様子



熊本城

熊本城も大きく破損しました。瓦が落ちているだけでなく、石垣が崩れ、建物も倒壊した部分があります。

熊本のシンボルなので、復興を望む声が早くも上がっているようです。

水前寺公園（水前寺成趣園）

本震後、湧水が湧かなくなり、池の水が無くなったそうです。ニュースでは、地下水脈が大きな揺れによって変わってしまったか？等、いろいろ、調査・推測が行われています。



阿蘇大橋の崩落

崖崩れにより、阿蘇の大動脈である阿蘇大橋が崩落しました。観光だけでなく、阿蘇周辺に住んでいる方々の足を麻痺させました。

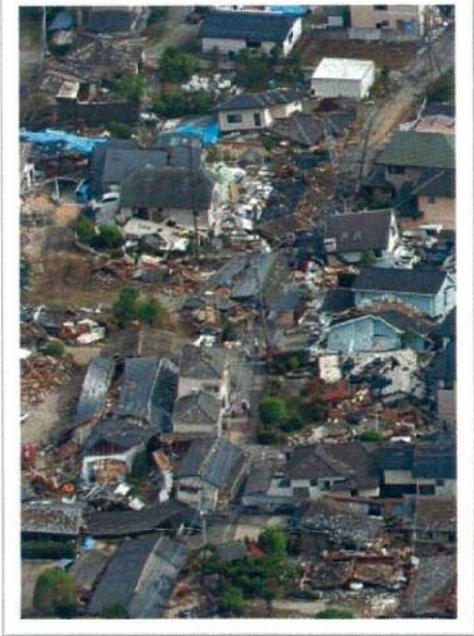
阿蘇大橋は、熊本市街地と阿蘇を結ぶ重要な道路である為、国が復興に乗り出しています。

ジェーンズ邸

熊本YMCAのシンボルともいえる、「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」が2回目の本震で全壊してしまいました。

落ち着いたら、是非、YMCA・ワイズの力で、復興の活動に向かっていきたいものです。





震源地 益城周辺

非常に多くの家が倒壊し、通れない道路も沢山出ています。熊本という地方の特色か、実家が益城、実家の近くに家を建てるという人が多く、私の周辺でも、実家も自宅もダメになったという方もおられます。

なかなか、現場のサポートを行っていくのは難しいですが、この地域の方が避難しておられる避難所を中心にYMCAと共に、まずはサポートしていきたいものです。

長期戦になるとと思いますが、一日も早く被災された方が、平穏な暮らしに戻れるようになるように協力・祈りたいと思います。

断層

大きく断層が横ずれした為、畑などの平地では、はっきり断層が地上に出てきた所も多いそうです。写真のように、1 m近く横ずれしているところも多いか。

いかに大きな揺れが起きたかが判ります。



益城総合体育館

被害が大きかった益城地域の方が多く非難されています。指定管理者のYMCAが中心となり、多くのボランティアと共に、避難所の運営・避難者のケアを継続しています。

まだまだ、多くの避難者と、テント生活者、車中泊の方がおられます。

これだけの方が、平穏に暮らせる帰る場所が無い事を見ると、如何に大変な事態かが判ります。

熊本YMCA学院通信

連絡主事 加藤 泰文

2016年4月14日の前震、16日の本震、また、度重なる余震の中で、今なお不安な中で生活されている熊本県下と九州の皆様へ心からお見舞い申し上げます。皆様におかれましては、いかがでしたでしょうか。

前震、本震を受け、まずは、本学院に集う学生のみなさん、及びご家族の皆様の安否が確認できたことは幸いです。しかしながら、ご自宅等が大きな被災を受け、今もなお避難生活を強いられている皆様もいらっしゃいます。

学生の皆さんには、災害救助法適用地域の世帯の日本学生支援機構奨学金（緊急採用・応急採用）に申請や、熊本YMCA特別奨学金での対応も検討している旨、保護者通信にてお知らせしたところです。

また、中央校舎においては、震災後、亀浦ワイズに2度にわたりお越しいただき、災害応急判定をいただきました。構造上に問題はないものの、ガラス破損や壁のひび割れ、天井の落下等、補修が必要な箇所があるため、5月9日（月）までを休校とし、一刻も早い授業再開に向け準備を進めているところです。その間、益城町、御船町、阿蘇市や一新小学校にて避難されている子どもたちや保護者のストレスケア、エコノミー症候群等の病気予防のための高齢者運動等、福祉ボランティア等の支援活動を行っております。学生の皆さんにボランティアの呼びかけをしたところ、これらの支援活動に数多くの本学院生が参加してくれていることを誇りに思っています。あわせて、ワイズの皆様からも、たくさんのご支援をいただきました。支援物資はもとより、今田ワイズより消毒液をお運びいただいたり、西日本区より寄付金を岩本ワイズより届けていただいたり、心温まるご支援に心より感謝申し上げます。

なお、熊本YMCAが行っている緊急災害支援やご支援いただきました事柄につきましてはFacebook（熊本ymca緊急災害支援）を通じて発信しております。皆様のご理解とご支援をいただければ幸いです。まだ余震が続いております。引き続き皆様ご自身とご家族の身の安全を第一にお過ごしてください。

編集後記

ブリテン委員長 佐藤通彦

今号は、熊本地震により、ワイズ活動も混乱しており、ブリテンの体裁が整えられなかった事、お詫びいたします。

幸い、私の家庭は、被害が少なかったのですが、皆様は少しずつ落ち着かれていますでしょうか。少し私毎を書くと、私たち家族は、5年前の東日本大震災の時、東京におりました。311は、昼間に起きた為、私は仕事で訪れた秋葉原のビルのエレベータ内でした。死んだと思いましたが、たまたま閉じ込められる事もなく、出られましたが、あの時ニュースの話題になっていた、帰宅困難者の1人となりました。

燃料の調達・家族との安否確認・仕事へ通勤できない日々・ガソリン入手困難、いろいろ経験したからか、今回、それほど、パニックにならず、地震後、さっとブルーシートを自宅前の道路に引いて、マットを引いて、野宿準備。二晩、路上で寝る事になりました。

電気が止まらなかった事で、とりあえず、蓄えの冷凍食品。多くのインスタント食品も電気でお湯が沸かせたので、数日は飢える危機もありませんでした。また、自動車・バイクは本震後、すぐにガソリンスタンドに行き混乱前に満タンに。

問題は水道。水道は全くダメで、よくニュースに出ておりますが、自宅横の熊本刑務所の所長の判断で、地域の方の避難所としての解放・非常食の配布・飲み水の給水を行っていただきました。飲み水は確保できるのですが、トイレを流したりする生活用水が・・・。

雨水を徹夜で集め、風呂に溜めて利用したり、できる限りの努力を行いました。水が出るようになって今でも、前日の風呂水は、翌日風呂に入る時まで、浴槽にいれておくライフスタイルになりました。

本当に、我が家は周辺の地域の動きに助けられた事と、経験がパニックの抑制効果があると実感しております。こんな経験は2度としなくて良いですが、今回の経験が、万人にとって無駄な経験とは思いません。次回に備える糧としたいものです。

その前に、復興です。YMCAスタッフの献身的な活動を全面的にサポートできるように、いま、にしクラブの結束力が試されようとしていると思います。